

日本医療機能
評価機構認定病院



医療法人 幸生会

琵琶湖中央病院

病院だより

第124号

2021/5/15



新入職員へのメッセージ

皆さん入職おめでとうございます。

職員一同皆さんの入職を心から歓迎いたします。

1年以上続くコロナ禍の状況ですが、決して気を緩めることなく今日の困難に皆さんとともに立ち向かっていきたいと思っております。

本年は21名の新入職員をお迎えしました。中には臨床実習の時間がままならぬまま今日を迎えられた方も多いことと察します。病院は安全な医療の提供を第一とします。どうか先輩職員の指導の下、急がず、確実な業務の習得に努めていただきたいと思います。

さて、当院は1982年に開設し、創立39年目に入っています。2008年に回復期リハビリテーション病棟60床を開設し、医療機能の分化と連携が進む10余年を経て、2018年3月には全ての病床を回復期リハビリテーションへと機能転換を完了しました。そしてこの秋から、当院の核であるリハビリテーションセンターの全面改修と拡大、リハビリテーション機器の整備と充実の事業に取り組みます。また本年度中に次のステージに向けての当院のメッセージとして、病院名を新しくすること

も決めています。当院はここ大津医療圏における唯一の回復期リハビリテーション医療を提供する病院であり、急性期の病院、地域の医療機関と深く連携しつつ、地域医療の発展にこれまで以上に貢献していくこととしています。

当院はさらに、病院の、医療の質を向上させ、今日まで以上に地域からの信頼を得る努力をし続けなければなりません。その基礎である組織は人で成り立っています。皆さんには医療専門職として、療養中の皆さんに寄り添い、共に歩み、そして日々の自己研鑽に努めていただき、成長しつづけていただきたく思います。そのことが必ずや琵琶湖中央病院への地域からの信頼を深め、病院の質をいっそう高めていくことにつながるものと確信しています。当院のさらなる発展に皆さんの力を大いに発揮していただくことをお願いします。

理事長 坂口 昇



菖蒲 花言葉「希望」

次のステージに向かって

2018年3月に回復期リハビリテーション医療を提供する病院へと機能転換を完了した当院は、来年、病院創立40年を迎えます。今日までの2025年を目標とした病院戦略を2040年にシフトし、SDGs（持続可能な開発目標）にある「すべての人に健康と福祉を」実践目標とする、次のステージに向かっての取り組み準備に入ります。

今夏に非常用電源の確保工事を開始し、引き続き当院の核であるリハビリ

テーションセンター（スタッフルームを含む）の全面改修と拡張工事、来春に向けては建物の長寿命化を目的とする外壁改修工事と、約1年間、リフレッシュ工事が続きます。現在の外来、通所そして入院リハビリテーションセンターが順次新しくなっていく計画です。また新しいリハビリテーションセンターでは高機能リハビリテーションの導入、関連機器の整備、充実を予定しています。今後の進捗状況については続報というかたちでご報告させていただきます。

管理副院長 荒堀光信



本気でラジオ体操！①

～伸びの運動～

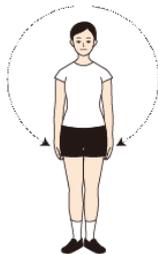
☆背すじを伸ばし良い運動姿勢をつくる☆

腕をよく伸ばして、ゆっくり高く上げ、背すじを伸ばしましょう



立位の場合

2回繰り返す



息を吸いながら
腕を前から上げ

息を吐きながら
腕を横から下ろす

2回繰り返す



息を吸いながら
腕を前から上げ

息を吐きながら
腕を下ろす

※背もたれにもたれず
背すじを伸ばして
行います。

※バランスを崩しやす
い方は背もたれにも
たれて行ってくださ
い。

※痛みがある場合や気分がすぐれないときは実施を控えご自身の体調に合わせて無理せず行ってください。

◎参考資料：株式会社 かんぽ生命保険（2021.4.22参考）

〔図解〕ラジオ体操第一 立位 https://www.jp-life.japanpost.jp/radio/instruction/radio_first.html

〔図解〕ラジオ体操第一 座位 <https://www.jp-life.japanpost.jp/radio/instruction/folder3/>

病棟からこんにちは⑥

★完成すると歓声があがるんです★

青空が澄み渡り、過ごしやすい季節になってきましたね。今回取材にお邪魔したのは患者様の共同作品があちこちに展示されている2B病棟です。今月、模造紙に力強く描くのは鯉のぼりの貼り絵。細かくちぎった折り紙が幾重にも重なると鱗が立体的になり今にも飛び出して来そうです。下絵はスタッフ、貼り付けは患者様と役割分担をした病棟一体の共同作品です。色彩の乏しい入院生活の中で四季を感じることができ、指先の訓練で集中力を高めるリハビリの一環。師長曰く、普段、病室では身体状況の話が主流で「患者様の人となり」を知ることができずにいる中で共同作品制作は「患者様を知る」ことができる貴重な時間だそうです。例えば、何気ない会話の中から思い出話に花が咲き信頼関係が生まれると、人生や子育てのアドバイスを受けることもあります。前人の知恵を教わることは私たちにとっても財産です。こうして大作が「完成」と「歓声」が上がるそうで、作品制作を通して、一層、患者様に近づいた関係を築くことができ心を込めた退院の送り出しができるそうです。何かと「ソーシャルディスタンス」を意識する世の中ですが、心にソーシャルディスタンスは必要ありませんね。



貼り絵作成の様子

つぶやき

ステイホームの機会にどっぴりとガーデニングとDIYにはまっています。冬の間にチューリップの球根を買いました。人気の品種は売り切れていて私が買いに行った時には隅のほうで品種もわからない売れ残りの球根しかありませんでした。どんな花をつけるのか少し楽しみにして丁寧に植えました。長い冬を越え雪をかぶりようやく咲いた花は人気の品種にも劣らない、それは見事な花でした。売れ残りの球根が長い冬を越え見惚れる程の花を咲かせた一発逆転の瞬間。人生にも通じるものがあると思いませんか。



地域連携部